

# 漁況海況予報事業 (昭和54年度)

川口哲夫・佐野 茂

## 1. 実施状況

### (1) 実施機関および担当者名

鳥取県水産試験場

境港分場長 佐野 茂

研究員 川口哲夫

第一鳥取丸乗組員 13名

### (2) 沿岸定線調査

#### イ 実施調査船

船名 第一鳥取丸

船長名 早野 一成

乗組員数 13名

調査船要目

噸数 99.14トン、馬力400HP、速力8.5ノット

測深機 3HP、ワイヤー長1500m

魚群深知機

機種 産研製T-L-16(379)型

周波数 28KC、75KC、200KC

測深範囲 0~1,600m、記録紙湿式

その他の観測機器

B.T、防・被圧転倒寒暖計、電気水温計、透明度板、転倒採水器、

Ⓢネット、Norpac-Net、Ⓢネット長さ4.5m、口径130cm。

ロ 観測定線概要図 (別図のとおり)

ハ 調査項目

気象 (天候、風向、風力、気温、気圧、雲量、雲形)

海象 (水色、透明度、波向、波浪、ウネリ、海深、汐目、海鳥、海光、変色水、急潮、海鳴、海流)

魚卵、稚魚、プランクトンの採集

測温 (観測層 0、10、20、30、50、75、100、150、200、300m)

塩検用採水 (観測層 同上)

## ニ 実施概要

調査年月日	船名	測点数	欠測点数	調査員名	備考
4月 6日～19日	第1鳥取丸	24	9	早野一成 (川口哲夫)	
5月 2日～12日	〃	30	3	〃	
8月30日～9月3日	〃	28	3	〃	
10月 2日～12日	〃	20	0	〃	
10月29日～30日	〃	20	0	〃	
3月3日～ 7日	〃	33	0	〃	

## 2 調査研究結果

### (1) 海洋状態の推移と特徴

**4月：** 4月上旬の山陰沖合における海況は、表面水温が沿岸部で13～14℃、沖合では11～12℃台、50m層では沿岸部で11～13℃、沖合では10～11℃台であった。

暖水域は隠岐島西側より竹島海域に張り出しており、また、オキ堆東側にも経ヶ岬より北方に張り出す暖水域が認められた。冷水域は隠岐島北方にあって、オキ堆西側より鳥取県沖合に張り出していた。

水温の年差は表面水温が年並か1℃高め、50m層でも年並か1℃高めであったが隠岐島北東側の冷水域ではやや低めであった。

**5月：** 5月上旬の海況は表面水温が沿岸部で15℃、沖合では14℃台、50m層水温は沿岸部が14℃、沖合では10～13℃台であった。暖水域は隠岐島より北方に張り出し、紫山沖にも北東に張り出す暖水域があった。冷水域は東経134度線を中心として南に強く張り出しており、その先端は隠岐島の東側より青谷沖に達していた。

水温の年差は表面では沿岸部でやや高め、沖合では1℃高めであり、50m層では沿岸部でやや高め、沖合の冷水域では1℃低めとなっているが、暖水域では1～2℃高めであった。

**6月：** 6月上旬の山陰沖合における海況は表面水温が沿岸部で17～19℃、沖合では16～17℃台、50m層では沿岸部が11～17℃、沖合では暖水域で12～15℃、冷水域では10～13℃台であった。暖水域は日御崎沖合より隠岐島北方に張り出し、また、経ヶ岬より北方に張り出している暖水域があってその勢力は強い。

冷水域は大和堆西側よりオキ堆、鳥取県沖合へ張り出しておりその勢力は強勢であった。一方、竹島海域より島根沖冷水域が南に張りだしていた。水温の年値は表面では沿岸部で1℃～やや高め、沖合では1℃低め、50m層では沿岸部が1℃～やや高め、沖合では、冷水域上で1～2℃低め、暖水域では1～3℃高めであった。

**7月：** 7月上旬の海況は表面水温が沿岸部で21～22℃、沖合では20～21℃台であり、50m層では沿岸部が15～20℃、沖合では11～15℃台であった。暖水域は網代沖より北方に張り出しオキ堆～大和堆南西海域に達しておりその勢力は強い。冷水域は隠岐島北方より南に張り出し、一方、大和堆東側より優勢な冷水域が若狭湾沖に張り出していた。

水温の年差は表面で年並か1℃高め、沖合では年並か1℃低め、50m層では沿岸部が1～2℃高め沖合では1℃低めであった。

**8月：** 8月上旬の海況は表面水温が沿岸域で25～27℃、沖合では24～25℃台、50m層水温は沿岸部で16～23℃、沖合では14～18℃台であった。冷水域は隠岐島北方より隠岐島の東側に張り出しており、また、島根沖冷水域を浜田沖にあってその勢力はきわめて強い。暖水域は網代沖よりオキ堆海域に張り出しその先端は大和堆海域に達しておりその勢力は強い。

なお、竹島海域にも弱い暖水域の張りだしが認められた。

水温の平年差は表面では1～2℃低め、50m層では沿岸域の暖水域で1～3℃高め、沖合の冷水域では1～3℃低めで経過した。

**9月：** 9月上旬の山陰沖合における海況は表面水温が沿岸域で25～26℃、沖合域で23～24℃台、50m層では沿岸域が20～24℃、沖合では13～19℃台であった。暖水域は隠岐島より北に張り出し、また、柴山沖よりオキ堆～大和堆海域に張り出している強勢な暖水域がある。冷水域は隠岐島北方よりオキ堆西側に張り出しその先端は青谷沖に達しており、一方、竹島海域より浜田沖に張り出した強勢な冷水域がある。水温の平年差は表面水温が沿岸域でやや高め、沖合では1℃低めであったが、50m層では沿岸の暖水域で2℃高め、沖合の冷水域では1～2℃低めに経過した。

**10月：** 10月上旬の山陰沖合における海況は、表面水温が沿岸部で23～24℃、沖合海域では22℃台であり、50m層では沿岸部で20～22℃、沖合の冷水域で15～19℃台である。暖水域は隠岐島の東側より北方海域に張り出しており、その勢力は強勢であった。冷水域は日御崎北西海域にあり隠岐島の西側に強く張り出していた。

水温の平年差は表面で1℃高めか平年並、50m層では冷水域上で1～2℃低め、暖水域上では1～3℃高めで経過した。

**11月：** 11月上旬の海況は、表面水温が沿岸部で21～22℃、沖合では20～21℃台、50m層では沿岸で21℃、沖合では18～21℃台である。暖水域は隠岐島周辺より北東に張りだしオキ堆北方海域を広くおおっていた。冷水域は浜田沖～隠岐島西側にありその勢力は強く、一方、経ヶ岬沖には能登半島沖合より強勢な冷水域が張り出していた。

水温の平年差は表面で1℃高め、50m層でも1～2℃高めで経過した。

**12月：** 12月上旬の山陰沖合における海況は、表面50m層共に沿岸部で18℃、沖合で17℃台で経過しており、暖水域は隠岐島近海とその北方海域を広くおおっていた。冷水域は竹島南方海域にあって隠岐島西側と日御崎沖に強く張りだしており、一方、オキ堆東側にも強勢な冷水域が張りだしてその先端は若狭湾沖合に達していた。

水温の平年差は表面、50m層ともに1～2℃高めに経過していた。

**3月：** 3月上旬の海況は表面水温が沿岸部で11～12℃、沖合では10～11℃台であり、50m層水温は沿岸部で12℃、沖合では8～11℃台である。暖水域は隠岐島東側よりオキ堆上に張り出しており本県沖合は暖水域におおわれていた。冷水域は日御崎北西沖に島根沖冷水域があってその勢力は強く張り出しており、また、隠岐島北方と経ヶ岬沖にはやや強勢な冷水域が張りだしている。水温の平年差は表面水温が沿岸部で平年並、沖合では1℃低め、50m層では暖水域上で平年並、冷水域では平年並か1℃低めに経過した。

## (2) 主要魚種の漁況の推移と特徴

**4月：** 大・中型巾着網：漁獲量は1,388.4トン、1日1統当たり6.1トン、魚種の割合はサバ85%、マイワシ12%、その他3%であった。4月は小サバ主体にマイワシ中羽が漁獲され漁況は例年並で順調に経過した。

小型巾着網：漁獲量は3,937トン、1日1統当たり3.8トン、魚種の割合はマイワシ67%、サバ31%、カタクチイワシ1%、ウルメイワシ1%でマイワシ中羽主体に小サバが漁獲され昨年よりはやや減少したものの漁況は好調に経過した。

**5月：** 大・中型巾着網：漁獲量は2,162.5トン、1日1統当たり6.1トン、魚種の割合はサバ66%、マイワシ30%、ウルメイワシ2%、その他2%であった。本月は4月と同じく小サバ主体にマイワシ中羽が漁獲され量的にも昨年同期と同じく漁況は極めて好調であった。

小型巾着網：漁獲量は4,651トン、1日1統当たり2.5トン、魚種の割合はマイワシ51%、サバ35%、アジ6%、ウルメイワシ4%、カタクチイワシ1%、その他3%であった。豊漁であった昨年同期よりは2,494トン減少しているがマイワシ中羽・小サバ主体に漁況は好調に経過した。

なお、サバの漁場は大・中・小型巾着網が共に隠岐島北側の白島沖を中心として形成されていたのが本年の特徴であった。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が32.9トン、1航海当たり1.6トン、冷凍船2.5トン、1航海当たり3.1トンの合計36.4トンであった。生船、冷凍船とも漁況は極めて低調で5月としては過去最低の漁獲であった。

**6月：** 大・中型巾着網：漁獲量は8,152トン、1日1統当たり3.0トン、魚種の割合はマイワシ51%、サバ27%、ウルメイワシ20%、その他2%でマイワシ中羽主体に小サバ、ウルメイワシ中羽が漁獲され漁獲量は昨年同期と同じく漁況は順調に経過した。

小型巾着網：漁獲量は3,700トン、1日1統当たり1.6トン、魚種の割合はマイワシ40%、ウルメイワシ34%、サバ20%、アジ1%、その他5%であった。昨年同期よりは1,024トン多く特に下旬にはマイワシ小羽(ヒラゴ)の漁獲が増加した。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が97.9トン、1航海当たり3.8トン、冷凍船は62.4トン、1航海当たり13.0トンの合計1,603トンであった。漁況は6月に入って上向き生船では昨年より多く一昨年とほぼ同じで、冷凍船でも同様な経過であった。

**7月：** 大・中型巾着網：漁獲量は6,454トン、1日1統当たり2.9トン、魚種の割合はサバ42%、ウルメイワシ36%、マイワシ18%、その他4%であり、小サバ、大中羽ウルメイワシ主体の漁況で昨年同期とほぼ同じく例年並の漁獲を示した。なお、7月中・下旬には魚群の北上にともなって漁場も隠岐島北方海域に移動したためサバの漁獲が増加した。

小型巾着網：漁獲量は4,566トン、1日1統当たり1.5トン、魚種の割合はマイワシ70%、ウルメイワシ16%、サバ11%、その他3%であり、沿岸域においてマイワシ小羽(ヒラゴ)主体に漁獲は好調で昨年同期よりは1,000トンも増加した。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が1,346トン1航海当たり6.7トン、冷凍船では1,312トン、1航海当たり21.5トンの合計2,658トンであった。漁況は生船・冷凍船ともに昨年・一昨年を上回り、特に冷凍船では過去最高の漁獲量を示した。

**8月：** 大・中型巾着網：漁獲量は6,338トン、1日1統当り36トン、魚種の割合はマイワシ72%、サバ20%、ウルメイワシ8%であった。8月上旬は7月下旬につづいて漁場が隠岐島北方沖合に形成され、マイワシ中羽、小サバ主体に漁獲されたが、7月中・下旬には沿岸域においてマイワシ小羽が漁獲の中心になった。昨年同期よりは3,709トン増加し、例年の約2倍となって8月としては漁況は好調に経過した。

小型巾着網：漁獲量は3,479トン、1日1統当り14トン、魚種の割合はマイワシ73%、その他(ブリ類主体)23%、ウルメイワシ3%、サバ1%であり、マイワシ小羽主体に昨年同期よりは850トン多く漁況は順調に経過した。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が1,489トン、1航海当り7.6トン、冷凍船では1,387トン、1航海当り36.5トンの合計2,876トンであった。漁況は昨年・一昨年より約1,000トンも増加し、1航海当り漁獲を生船・冷凍船ともに高水準であり、特に冷凍船では総漁獲量、1航海平均漁獲量ともに過去最高を示し漁況は極めて好調に経過した。

**9月：** 大・中型巾着網：漁獲量は4,013トン、1日1統当り21トン、魚種の割合はマイワシ89%、サバ4%、ウルメイワシ2%、アジ1%、カタクチ1%、その他3%であった。本月はマイワシ小羽主体に漁獲され、昨年同期よりはやや増加したものの漁況は極めて低調であった。

小型巾着網：漁獲量は1,983トン、1日1統当り11.3トン、魚種の割合はマイワシ69%、その他26%、ウルメイワシ3%、サバ1%であった。漁況はマイワシ小羽・ハマチ主体で例年並に経過した。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が1,082トン、1航海当り6.9トン、冷凍船では416トン、1航海当り29.7トンの合計1,498トンであった。漁況は冷凍船が北海道各港を基地とし日本海北部海域で操業をしており境港への水揚は少ない。しかし、生船では昨年、一昨年に比較して総漁獲量では少ないが1航海当りでは上回っていた。

**10月：** 大・中型巾着網：漁獲量は1,658トン、1日1統当り44.5トン、魚種の割合はマイワシ94%、サバ4%、その他2%であり、マイワシ小羽主体に漁況は好調に経過した。

小型巾着網：漁獲量は3,404トン、1日1統当り16.6トン、魚種の割合はマイワシ87%、その他8%、ウルメイワシ2%、アジ1%、カタクチイワシ1%で、マイワシ小羽主体に漁況は極めて好調で昨年同期よりは約2,200トン多く、10月では過去最高の漁獲高を示した。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が629トン、1航海当り5.7トン、冷凍船では255トン、1航海当り19.6トンの合計884トンであった。漁況は10月に入ってからやや低調となり昨年よりは漁獲も下回った。

**11月：** 大・中型巾着網：漁獲量は1,0410トン、1日1統当り44.5トン、魚種の割合はマイワシ77%、その他14%、ウルメイワシ6%、サバ2%、カタクチイワシ1%であり、マイワシ小羽主体に漁況は順調であった。昨年同期よりは9,000トンも多く昭和50年以後では最も高い漁獲量であった。

小型巾着網：漁獲量は1,177トン、1日1統当り10.1トン、魚種の割合はマイワシ51%、その他(ハマチ主体)31%、ウルメイワシ9%、アジ4%、カタクチイワシ4%、サバ2%であった。昨年同期よりは増加し近年では最も多かった。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が810トン、1航海当り5.5トン、冷凍船では662トン、1航海当り17.0トンの合計1,472トンであった。漁況は10月につづいて低調に経過した。

12月：大・中型巾着網：漁獲量は30,150トン、1日1統当り138トン、魚種の割合はマイワシ51%、サバ46%、その他2%であった。12月上旬には水温が例年より高めに経過したため、隠岐島近海への魚群の南下がみられなかったが、隠岐島北方40～50マイルの海域でサバ・マイワシの濃群が発見されその後漁況は極めて好調に経過し漁獲量は作年の約3倍に達した。

小型巾着網：漁獲量は1,315トン、1日1統当り6.5トン、魚種の割合はその他（ハマチ主体）47%、カタクチイワシ38%、マイワシ9%、アジ4%、ウルメイワシ1%、サバ1%であった。水温が高めに経過し12月に入ってもハマチの好漁がみられ、また、美保湾の船びき網によるカタクチイワシも好調で12月の漁獲量としては最高であった。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が285トン、1航海当り2.9トン、冷凍船では1,000トン、1航海当り1.22トンの合計1,285トンであった。漁況は生船・冷凍船ともに漁獲量は減少したが、昨年・一昨年に比較すると増加しておりほぼ例年並の漁獲水準で経過した。

1月：大・中型巾着網：漁獲量は20,102トン、1日1統当り146トン、魚種の割合はサバ62%、マイワシ35%、ウルメイワシ2%であった。1月に入って上旬では天候がおだやかに経過して漁況も極めて好調であったが、中旬～下旬にかけては荒天の日が多く出漁日数が制限され漁獲量は減少した。しかし、全般的な漁獲では昨年の約4倍を示し漁況は好調に経過した。

小型巾着網：漁獲量は558トン、1日1統当り16トン、魚種の割合はサバ44%、マイワシ37%、カタクチイワシ17%、ウルメイワシ1%であった。荒天の日が多く出漁日数は少ないが、漁獲量は例年並に経過した。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が152トン、1航海当り0.8トン、冷凍船では34トン、1航当り1.13トンの合計186トンであった。1月の漁況は冬生れ群の来遊が極めて少なく例年に比較して低調に経過した。

2月：大・中型巾着網：漁獲量は20,270トン、1日1統当り104トン、魚種の割合はサバ89%、マイワシ10%、アジ1%であり、豆・小サバ主体に漁況はきわめて好調で、2月としては過去最高の漁獲量を示した。

小型巾着網：漁獲量は1,184トン、1日1統当り22トン、魚種の割合はマイワシ65%、サバ30%、アジ4%で、中羽イワシ、豆・小サバ主体に漁況は順調に経過した。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が74トン、1航海当り0.6トンで冷凍船の水揚はなく、冬生れ群の来遊がきわめて少なく漁況は低調であった。

3月：大・中型巾着網：漁獲量は10,031トン、1日1統当り56トン、魚種の割合はマイワシ71%、サバ26%、アジ2%、その他1%であり、マイワシ大・中羽、小サバ主体に3月としては最高の漁獲量を示し漁況は好調に経過した。

小型巾着網：漁獲量は4,190トン、1日1統当り33トンで、魚種の割合はマイワシ71%、サバ26%、アジ2%、その他1%であり、マイワシ中羽主体に3月の漁獲量では最も多く漁況は順調であった。

### (3) 昭和54年における主要魚種資源の評価

#### イ. マアジ

昭和54年（1月～12月）に境港において大・中型巾着網で漁獲されたマアジの総漁獲量は990トン、で全漁獲量に占める割合は1%でありほぼ昨年並の漁獲水準であった。漁獲量の月別変動は2～4

月の越冬魚群が多獲され3月には526トンと年間で最も多い漁獲を示したが、その他の月では50トン以下でみるべき水揚げは認められなかった。山陰沖合におけるマアジ資源は対馬暖流域における資源の低落を反映して、昨年・一昨年と同じくきわめて低水準で経過している。

#### ロ. マサバ

昭和54年1月～12月に境港の大・中型巾着網によって漁獲されたマサバの総漁獲量は57,184トンで全漁獲量に占める割合は44%であった。漁獲量の月別変動については4～5月の産卵群と12月に越冬南下魚群がそれぞれ10,000トン以上の漁獲が認められたが、秋期の9～11月にかけては漁獲は100～400トン台ときわめて少なく、その他の月では2,000～4,000トンの漁獲量であった。

山陰沖合におけるマサバ資源は昭和52年に最大量を示したが、昭和53年には漁獲量が半減し、本年もほぼ昨年並の漁獲を示しておりこの海域におけるマサバ資源量の減少傾向が認められる。

#### ハ. マイワシ

境港における昭和54年のマイワシ漁獲量は大・中型巾着網が62,468トン、全漁獲に対する割合は48%であり、小型巾着網では20,061トン、全漁獲に対する割合は63%であった。季節的な漁獲変動については、春期産卵群の来遊が多く3～6月まで中羽イワシ主体に漁獲され、8～11月の夏・秋期についても当才魚の漁獲がきわめて多かった。また、12月には大・中羽イワシの南下越冬群が大量に漁獲された。

山陰沖合におけるマイワシ資源は、対馬暖流域における資源の増大とともに昭和48年より増加しはじめ昭和54年では過去最高の漁獲量を示し、その資源はきわめて高水準で経過しており今後も増加傾向がつづくものと考えられる。

#### ニ. ウルメイワシ

昭和54年の漁獲量は大・中型巾着網が6,643トン、全漁獲量に占める割合は5%であり、小型巾着網では2,602トン、全漁獲量に占める割合は8%であった。季節的な漁獲変化は産卵期である6～7月に漁獲が多くみられたのみでその他の月では1月と11月が500トン以上とやや多いが全般的に漁獲量は少ない。

山陰沖合におけるウルメイワシの資源量は低水準ながらここ2～3年安定しやや増加しているが急激な資源量の増大は認められない。

#### ホ. カタクチイワシ

漁獲量は大・中型巾着網が185トン、全漁獲量に占める割合は0.1%、小型巾着網では1,066トンで全漁獲量に占める割合は3%であった。

大・中型巾着網では9～11月にわずかに水揚げがみられたのみであり、小型巾着網では冬期美保湾内における船ひき網の漁獲がやや多かったが、その他は春期の4～5月と秋期の10・11月に少量ではあるが漁獲された。

山陰沖合におけるカタクチイワシの資源は過去数年にわたり減少しきわめて低水準となっており、局部的に美保湾においての秋季発生群がやや増加しているのみである。

#### ヘ. スルメイカ

昭和54年の境港における沖合スルメイカの漁獲量は、生船が7,026トン、1航海当り4.5トンで、

冷凍船は5,835トン、1航海当り18.3トン、合計12,861トンで昨年よりは1,876トン多い。

日本海沖合におけるスルメイカの資源水準については昭和52年より急減して本年も資源の回復は認められず低水準のまま経過している。



表 1-1(1) 1979年 境港市着網漁獲高(大・中型) (注・( )内は%)

月	かたくち		まいわし		うるめ		さ		あ		その他	
	漁獲高 (ト)	1日1統当り (ト)	漁獲高 (ト)	1日1統当り (ト)	漁獲高 (ト)	1日1統当り (ト)	漁獲高 (ト)	1日1統当り (ト)	漁獲高 (ト)	1日1統当り (ト)	漁獲高 (ト)	1日1統当り (ト)
1	0		1,649 (31)	12.6	651 (12)	5.0	2,588 (49)	19.8	22	0.2	364 (7)	2.8
2	0		529 (9)	3.5	201 (3)	1.3	4,690 (80)	30.9	159 (3)	1.0	324 (6)	2.1
3	0		4,321 (55)	23.2	10	—	2,789 (35)	15.0	525 (7)	2.8	220 (3)	1.2
4	0		1,597 (12)	7.0	117	0.5	11,831 (85)	51.9	128	0.6	211 (3)	0.9
5	0		6,433 (30)	18.1	444 (2)	1.3	14,339 (66)	40.4	12	—	397 (2)	1.1
6	4	—	4,191 (51)	15.5	1,605 (20)	5.9	2,217 (27)	8.2	6	—	129 (2)	0.5
7	0		1,181 (18)	5.3	2,333 (36)	10.5	2,734 (42)	12.3	0	—	206 (4)	0.9
8	0		4,532 (72)	26.0	491 (8)	2.8	1,267 (20)	7.2	0	—	28	0.2
9	27 (1)	0.6	3,569 (89)	18.6	79 (2)	0.4	172 (4)	0.9	26 (1)	0.1	140 (3)	0.7
10	37	0.1	10,906 (94)	41.6	79	0.3	420 (4)	1.6	16	—	200 (2)	0.8
11	117 (1)	0.5	8,046 (77)	34.4	596 (6)	2.4	166 (2)	0.7	40	—	1,445 (14)	6.2
12	—		15,494 (51)	71.1	37		13,971 (46)	64.1	55	—	583 (2)	2.7
計	185	0.1	62,468 (48)	23.8	6,643 (5)	2.5	57,184 (44)	21.8	990 (1)	0.4	4,257 (3)	1.6

表 1-1(2) 1980年 境港市着網漁獲高(大・中型) (( )内は%)

月	かたくち		まいわし		うるめいわし		さ		あ		その他	
	漁獲高 (ト)	1日1統当り (ト)	漁獲高 (ト)	1日1統当り (ト)	漁獲高 (ト)	1日1統当り (ト)	漁獲高 (ト)	1日1統当り (ト)	漁獲高 (ト)	1日1統当り (ト)	漁獲高 (ト)	1日1統当り (ト)
1	—		7,044 (35)	51.0	451 (2)	3.3	12,485 (62)	90.5	18	0.1	104 (1)	0.8
2	—		1,991 (10)	10.3	3		17,926 (89)	92.4	261 (1)	1.3	89	0.5
3	—		7,088 (71)	39.8	10	0.5	2,586 (26)	14.5	236 (2)	1.3	111 (1)	6.2

月	総漁獲高 (ト)	延出漁 統	1日1統当り (ト)
1	5,274	131	40.3
2	5,903	152	38.3
3	7,866	186	42.3
4	13,884	228	60.9
5	21,625	355	60.9
6	8,152	271	30.1
7	6,454	223	28.9
8	6,338	175	36.2
9	4,013	192	20.9
10	11,658	292	44.5
11	10,410	234	44.5
12	30,150	218	138.3
計	131,727	2,627	50.1

月	総漁獲高 (ト)	延出漁 統	1日1統当り (ト)
1	20,102	138	146
2	20,270	194	104
3	10,031	178	56

表 2-1(1) 1979年 境港巾着網漁獲高(小型) ((内は%)

月	かたくち		まいわし		うめいわし		さ		あ		じ		その他	
	漁獲高 (トン)	1日1統当り (トン)	漁獲高 (トン)	1日1統当り (トン)	漁獲高 (トン)	1日1統当り (トン)	漁獲高 (トン)	1日1統当り (トン)	漁獲高 (トン)	1日1統当り (トン)	漁獲高 (トン)	1日1統当り (トン)	漁獲高 (トン)	1日1統当り (トン)
1	314 (56)	6.5	148 (26)	3.1	7 (1)	0.1	95 (17)	2.0	3 (1)	0.1	0	0	0	0
2	65 (7)	1.2	856 (92)	20.1	—	—	4	0.1	10 (1)	0.2	0	0	0	0
3	—	—	1,879 (87)	22.4	9 (1)	0.1	181 (8)	2.2	3	—	93 (4)	1.1	19	0.2
4	33 (1)	0.3	2,641 (67)	25.4	39 (1)	0.4	1,204 (31)	11.6	1	—	155 (3)	0.8	194	0.8
5	46 (1)	0.3	2,331 (51)	12.6	191 (4)	1.0	1,648 (36)	8.9	280 (6)	6.1	149 (3)	0.5	747 (23)	3.1
6	9	—	1,462 (40)	6.3	1,271 (34)	5.4	726 (20)	3.1	38 (1)	0.2	194 (5)	0.8	149 (3)	0.5
7	9	—	3,164 (70)	10.7	705 (16)	2.4	521 (11)	1.8	18	—	511 (1)	2.9	264 (8)	1.3
8	—	—	2,531 (73)	10.5	118 (3)	0.5	62 (1)	0.3	21	0.1	367 (31)	3.2	617 (47)	3.0
9	—	—	1,373 (69)	7.8	65 (3)	0.4	17 (1)	0.1	17 (1)	0.1	3,116 (10)	1.6	525 (2)	0.3
10	44 (1)	0.2	2,956 (87)	14.4	85 (2)	0.4	16	0.1	39 (1)	0.2	264 (8)	1.3	617 (47)	3.0
11	49 (4)	0.4	596 (51)	5.1	103 (9)	0.9	20 (2)	0.2	42 (4)	0.4	367 (31)	3.2	617 (47)	3.0
12	497 (38)	2.4	124 (9)	0.6	9 (1)	0.1	15 (1)	0.1	53 (4)	0.2	3,116 (10)	1.6	525 (2)	0.3
計	1,066 (3)	0.6	20,061 (63)	10.4	2,602 (8)	1.3	4,509 (14)	2.3	525 (2)	0.3	3,116 (10)	1.6	525 (2)	0.3

表 2-2(2) 1980年 境港巾着網漁獲高(小型) ((内は%)

月	かたくち		まいわし		うめいわし		さ		あ		じ		その他	
	漁獲高 (トン)	1日1統当り (トン)	漁獲高 (トン)	1日1統当り (トン)	漁獲高 (トン)	1日1統当り (トン)	漁獲高 (トン)	1日1統当り (トン)	漁獲高 (トン)	1日1統当り (トン)	漁獲高 (トン)	1日1統当り (トン)	漁獲高 (トン)	1日1統当り (トン)
1	93 (17)	2.6	205 (37)	5.7	7 (1)	0.2	245 (44)	6.8	3	0.1	5 (1)	0.1	3	0.1
2	—	—	773 (65)	14.3	—	—	355 (30)	6.6	52 (4)	1.0	3	0.1	3	0.1
3	—	—	3,967 (95)	31.5	14 (1)	0.1	139 (3)	1.1	29 (1)	2.3	41 (1)	3.3	41 (1)	3.3

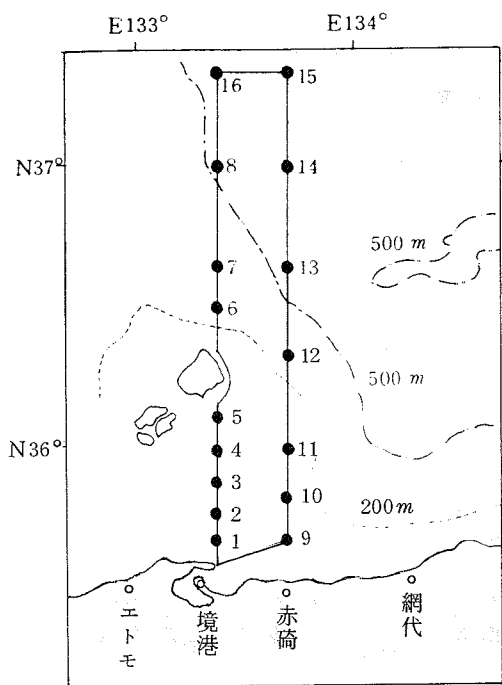


図1 沿岸定線点

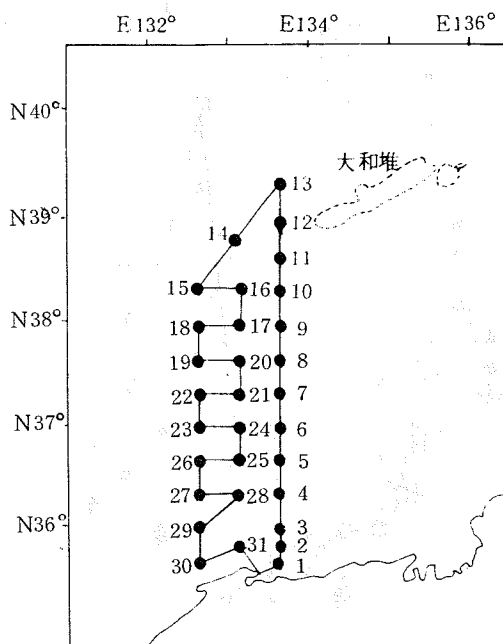


図2 スルメイカ漁場一斉調査定点

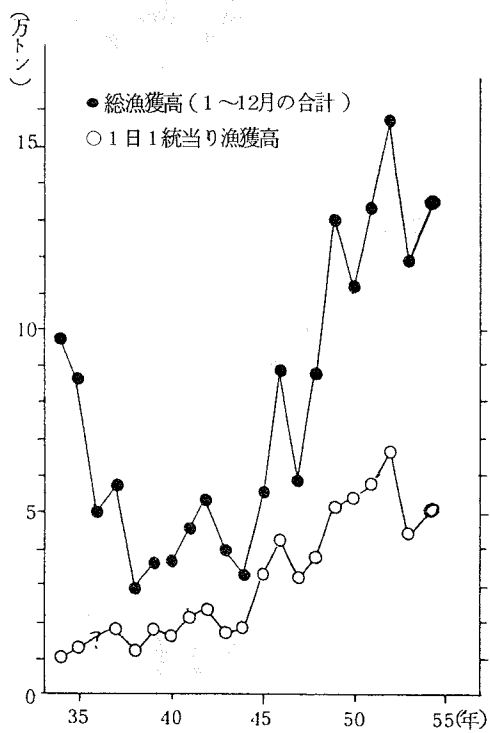


図3 境港における巾着網漁獲量の経年変化 (大・中型巾着網)

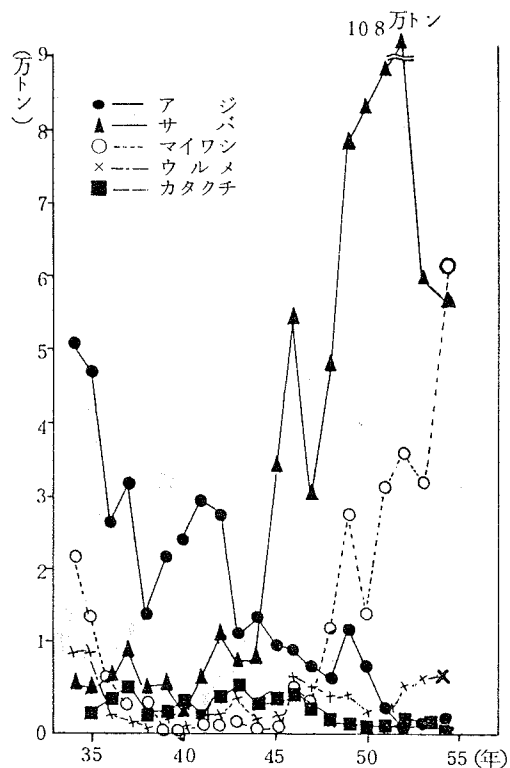


図4 境港における巾着網の魚種別経年変化 (大・中型巾着網)

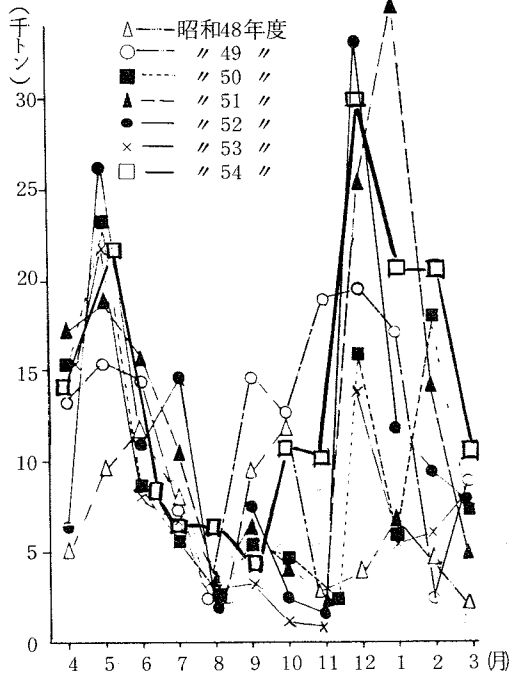


図5 境港における巾着網月別総漁獲高 (大・中型)

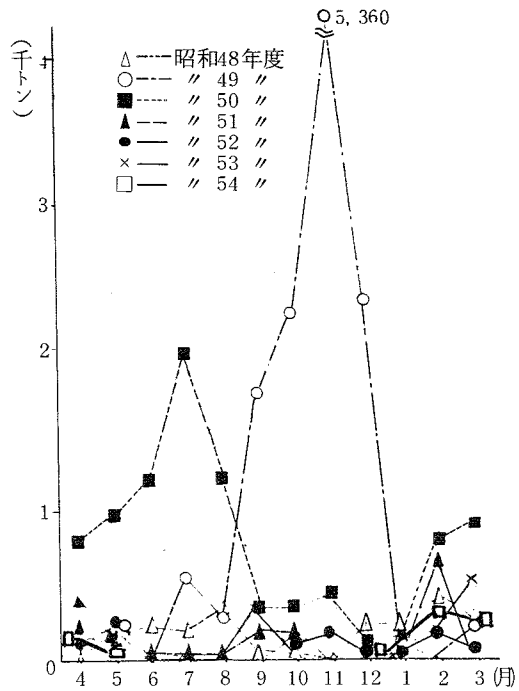


図6 境港におけるアジの月別漁獲高 (大・中型)

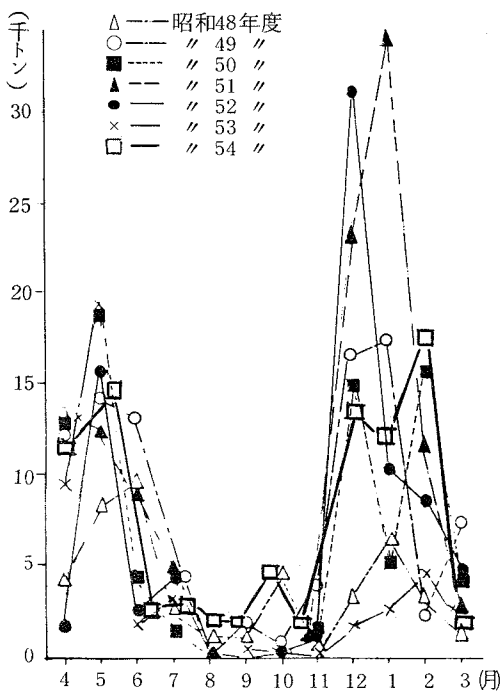


図7 境港におけるサバの月別漁獲高 (大・中型)

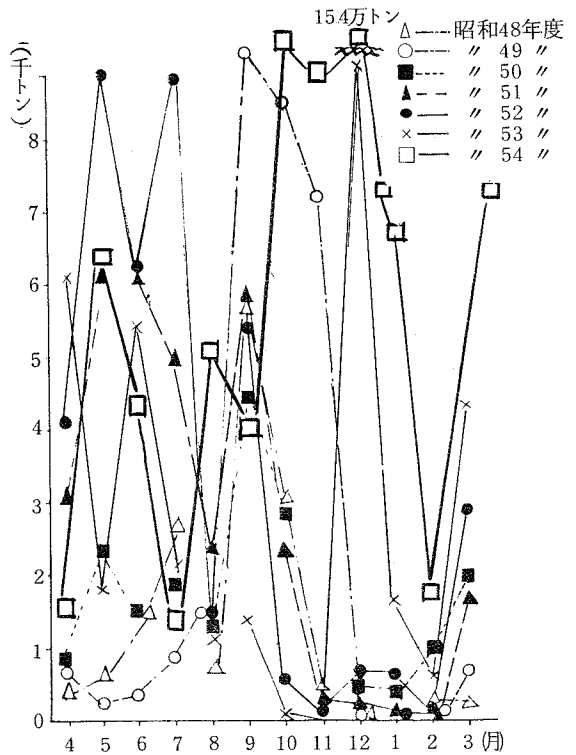


図8 境港におけるマイワシの月別漁獲高 (大・中型)

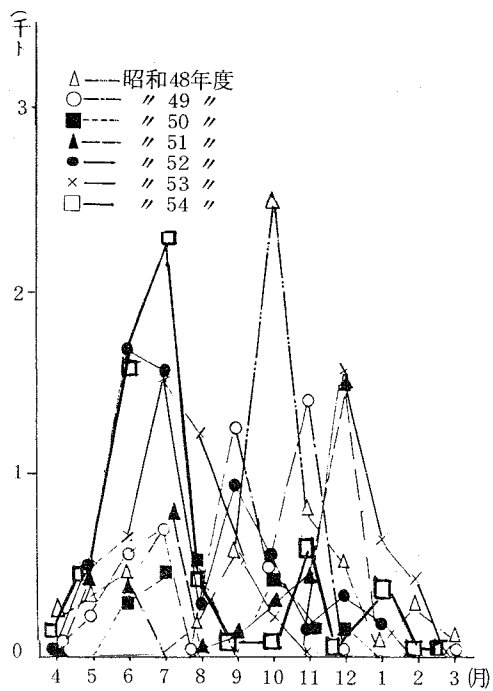


図9 境港におけるウルメイワシの月別漁獲高 (大・中型)

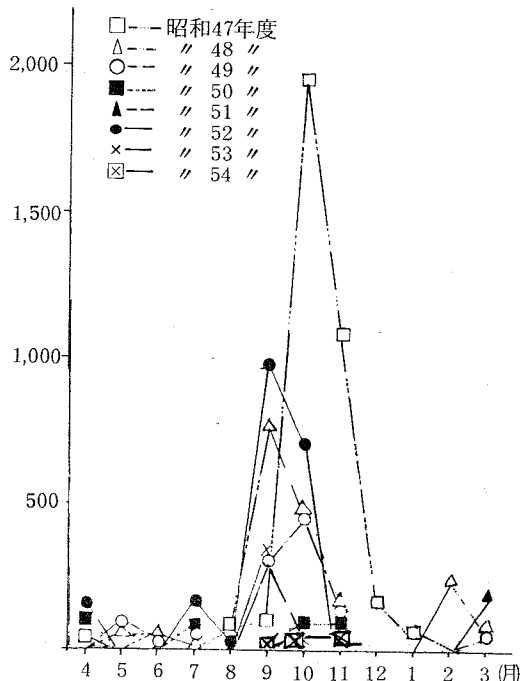


図10 境港におけるカタクチイワシの月別漁獲高 (大・中型)

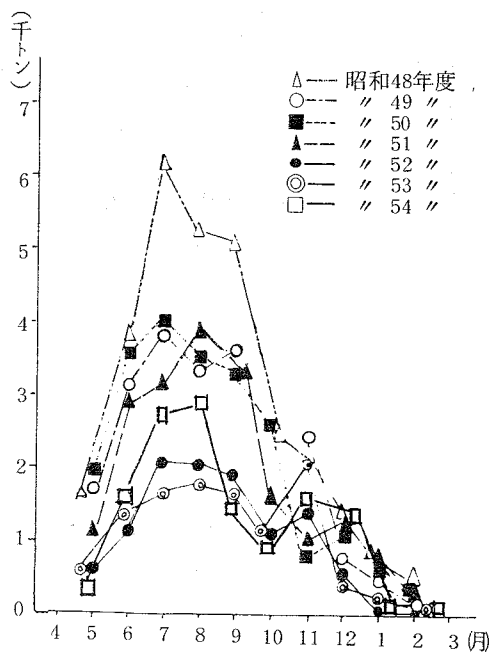


図11 境港におけるスルメイカ月別漁獲高

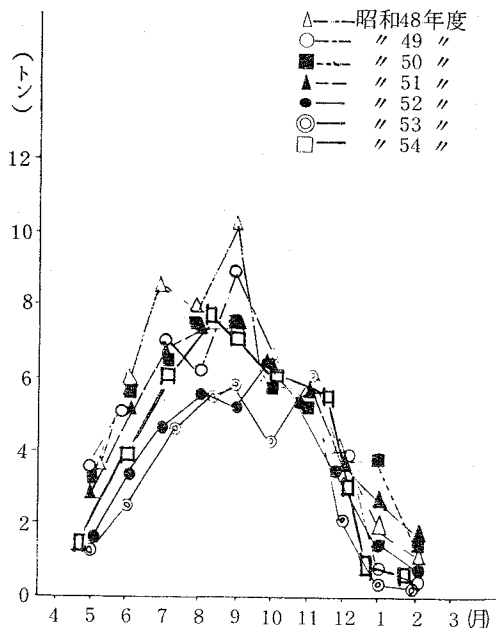
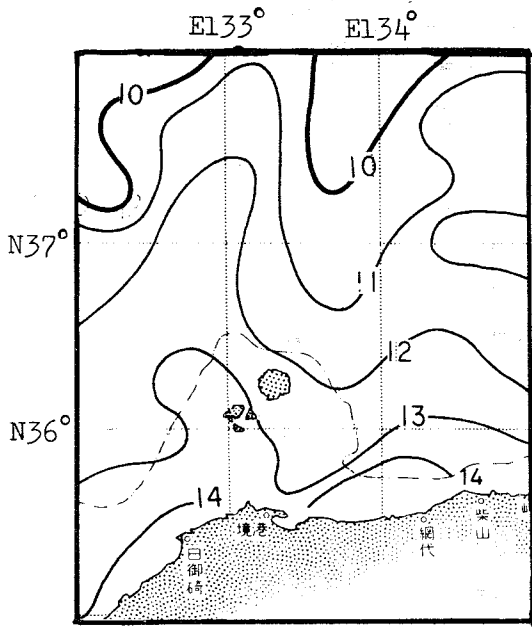
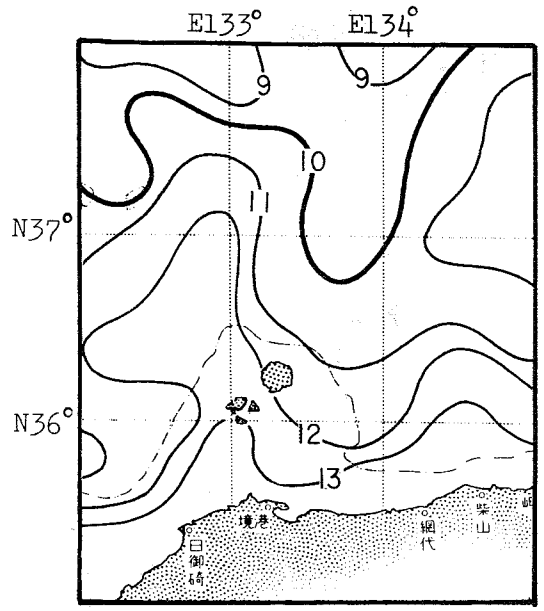


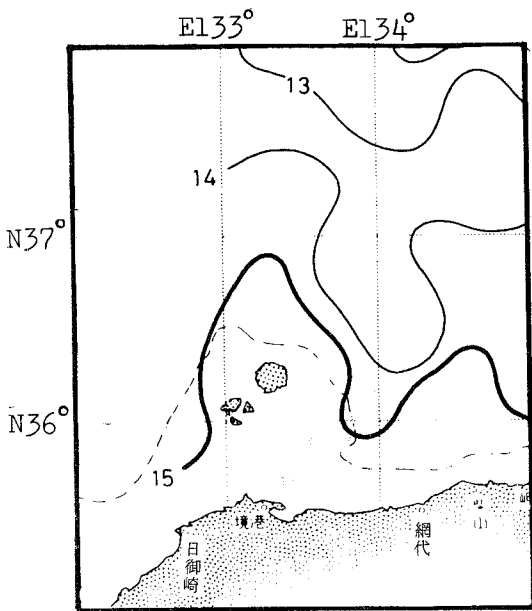
図12 境港におけるスルメイカ生船1航海漁獲量



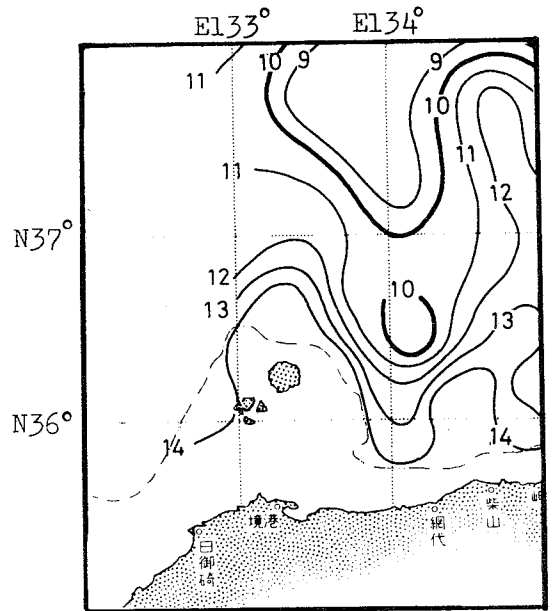
1979年4月上中旬  
表面水温(°C)



1979年4月上中旬  
50 m層

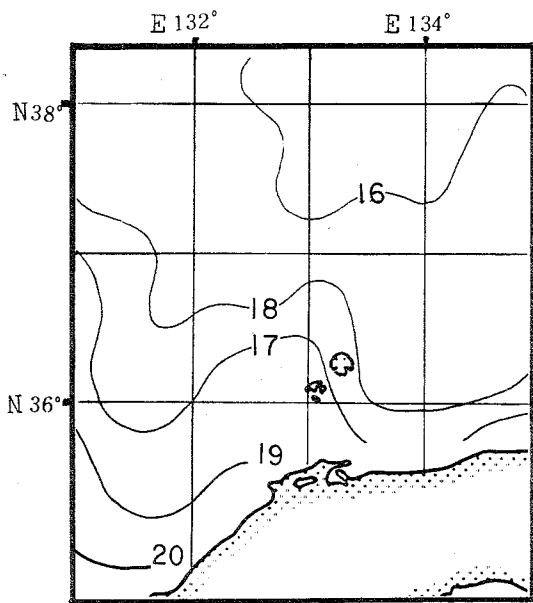


1979年5月上旬  
表面水温(°C)

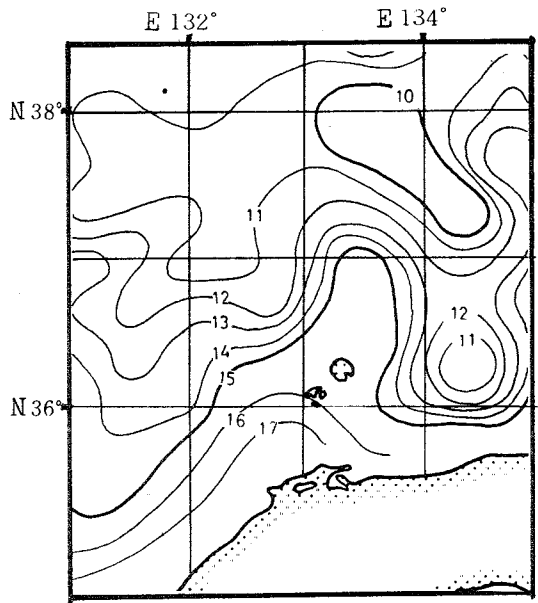


1979年5月上旬  
50 m層

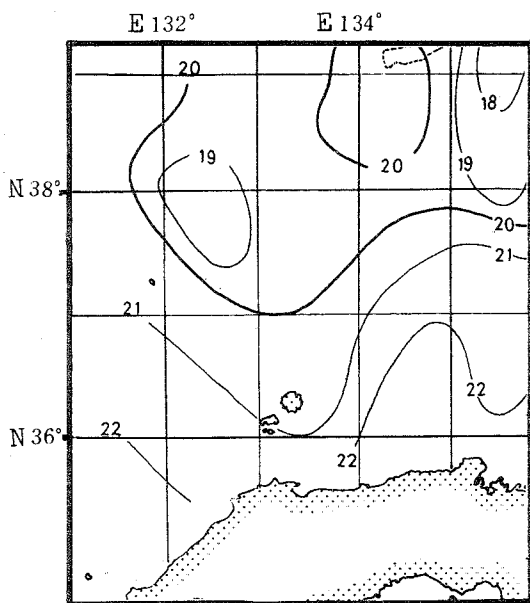
図 13-(1) 鳥取県沖合の水温水平分布



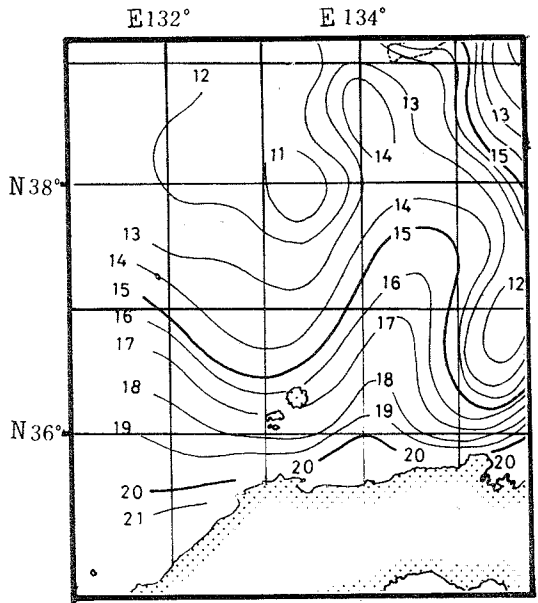
1979年6月上旬  
表層水温(°C)



1979年6月上旬  
50 m層

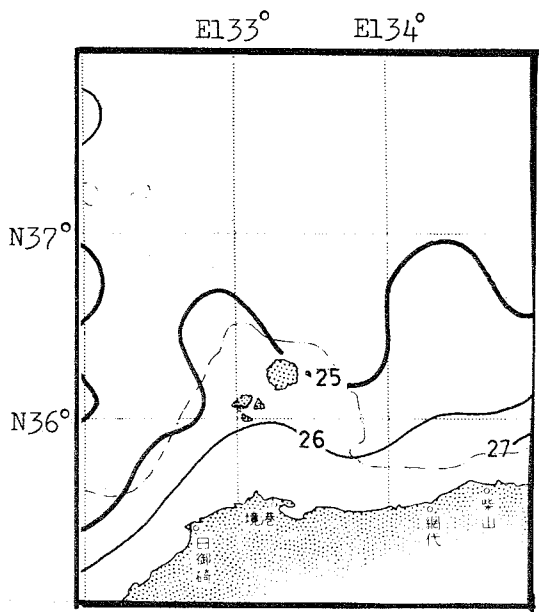


1979年7月上旬  
表面水温(°C)

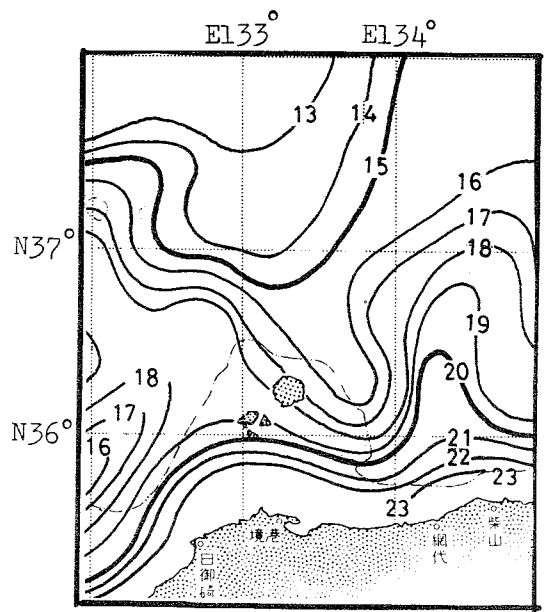


1979年7月上旬  
50 m層

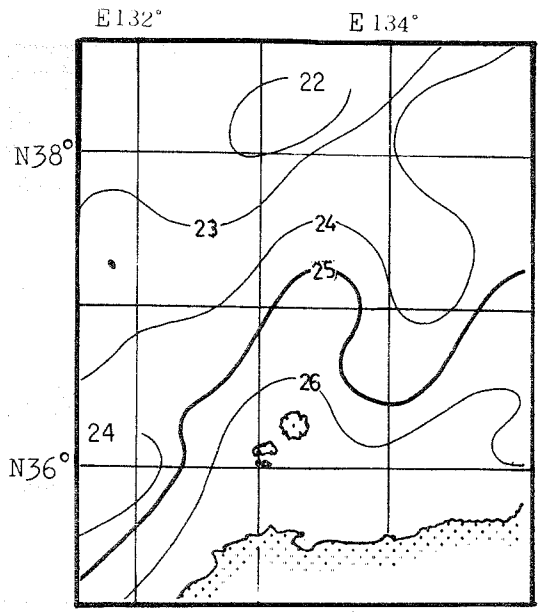
図 13-(2) 鳥取県沖合の水温水平分布



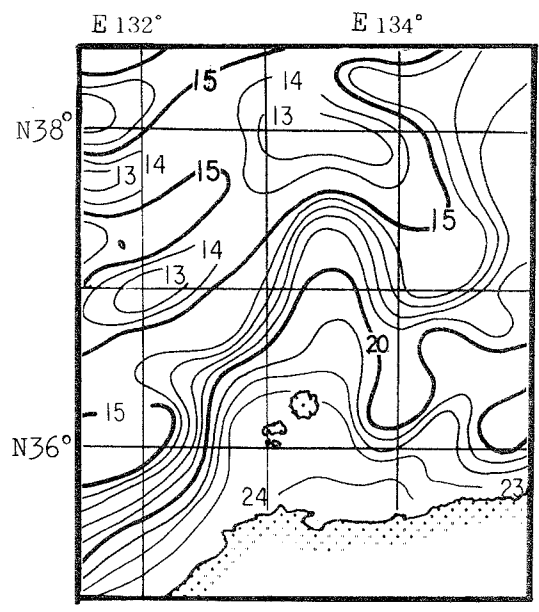
1979年8月上旬  
表面水温(°C)



1979年8月上旬  
50 m層



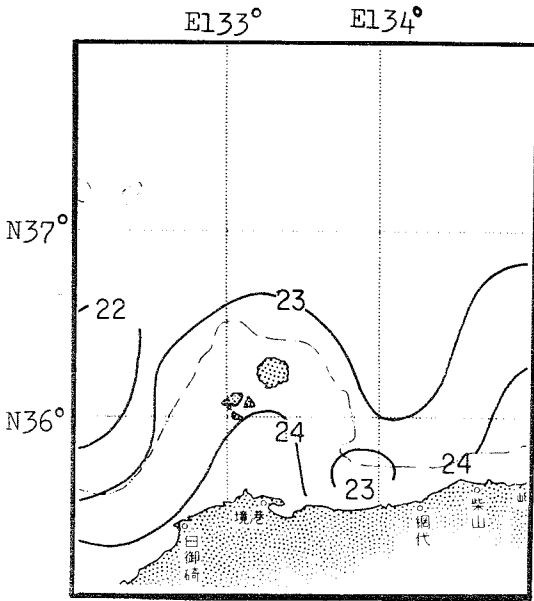
1979年9月上旬  
表面水温(°C)



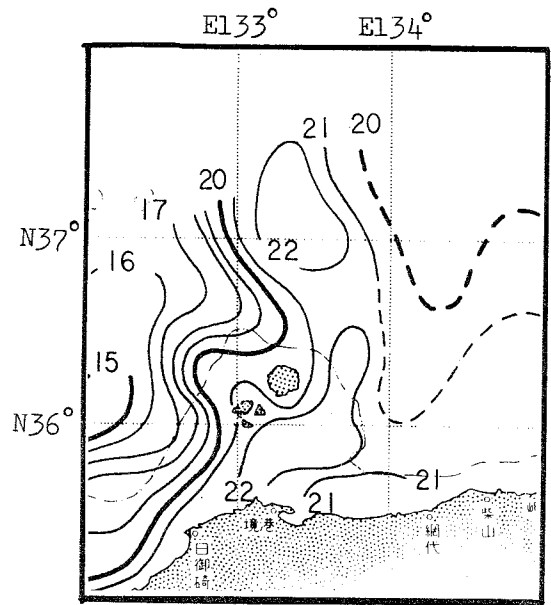
1979年9月上旬  
50 m層

図 13-(3) 鳥取県沖合の水溫水平分布

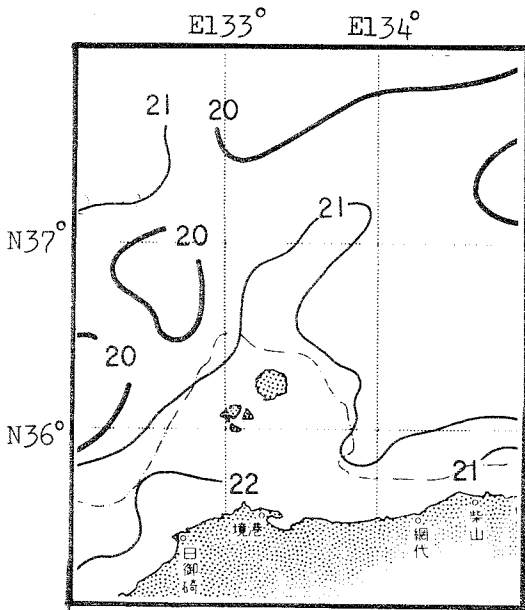




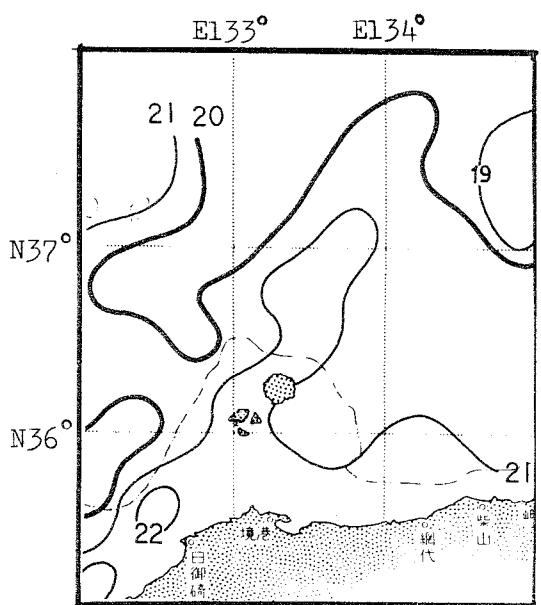
1979年10月上旬  
表面水温(°C)



1979年10月上旬  
50 m層

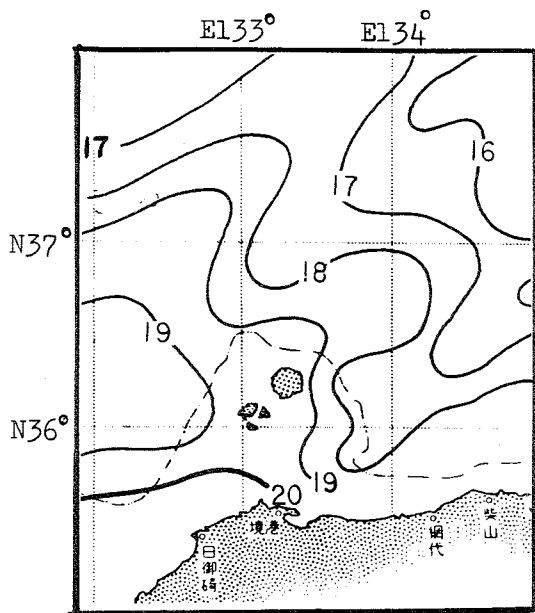


1979年11月上旬  
表面水温(°C)

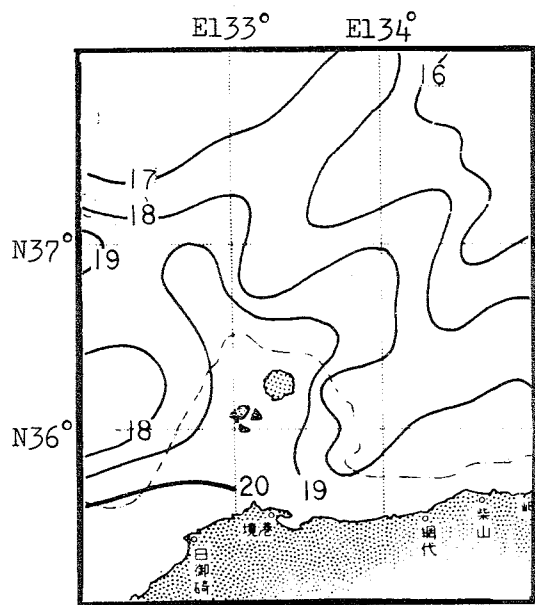


1979年11月上旬  
50 m層

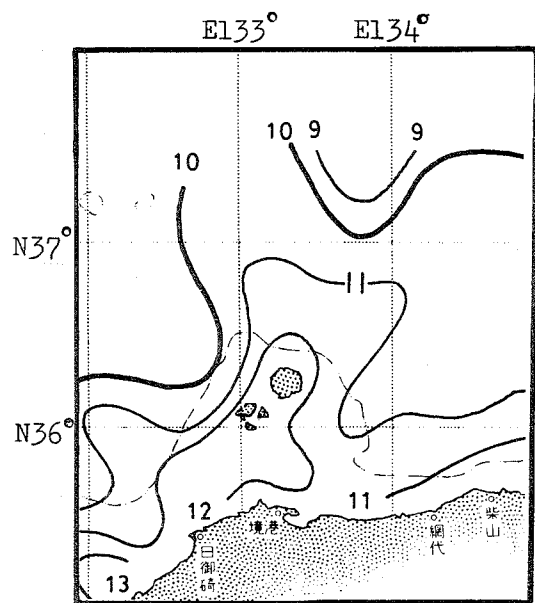
図 13-(4) 鳥取県沖合の水温水平分布



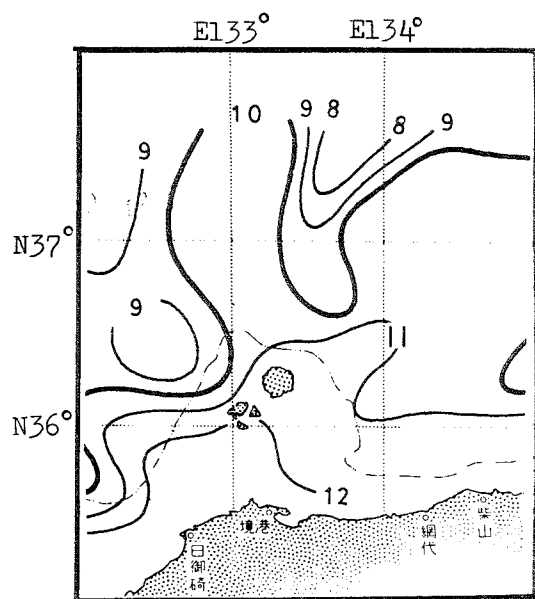
1979年12月上旬  
表面水温(°C)



1979年12月上旬  
50 m層



1980年3月上旬  
表面水温(°C)



1980年3月上旬  
50 m層

図 13-(5) 鳥取県沖合の水温水平分布